

荻野地区 地域展開催要領

1 目的

厚木市の地域に焦点を絞り、その地域に由来する特徴的な資料を紹介することで地域の魅力を再発見し、郷土学習を深めることを目的とします。

2 テーマ

あつぎ郷土博物館地域展

「地域再発見！ 4 荻野地域 ～光善院・あかとんぼ・ガラス工芸～」

3 会期

令和 7 年 3 月 29 日（土）から 6 月 22 日（日）まで

4 会場

企画展示室・エントランスホール

5 展示概要

(1) 「千葉家文書」

令和 6 年度に寄託から寄贈へと変わった古文書資料の中から、「千葉家文書」「荻野神社資料」、寄託資料である「養徳寺資料」を紹介します。いずれも荻野地域の信仰に関わる古文書で、特に「千葉家文書」には、明治新政府が出した修験禁止令によって廃寺となった光善院と量宝院、修験道に関する資料が多く収められており、地域の信仰を調べる上で貴重な資料となっています。

(2) 荻野山中藩

荻野山中藩は、小田原藩の支藩の一つ駿河松長藩(現在の静岡県沼津市)が、陣屋を松長から荻野山中の地に移したことで成立を迎えた譜代の小藩です。幕末に討幕派浪士達の襲撃を受け陣屋は焼失しました。この陣屋焼討事件は、江戸薩摩藩邸の焼討から戊辰戦争へとつながっていきます。今回の展示会では、荻野山中藩二代目藩主大久保教孝が刊行した漢籍『五種遺規』をはじめ、荻野山中藩の藩主に関わる資料を展示、紹介していきます。

(3) あかとんぼ

あかとんぼは、トンボ目トンボ科に所属する昆虫の総称で、産卵期に体が赤色を帯びるグループです。昆虫の名称として認知度が高く、本市でも夏～秋にかけて普通でしたが激減してしまいました。このような事例は全県下で確認されており、普通に見られた多くの昆虫が絶滅の危機に瀕しています。

荻野地域は、約 30 年前に科学的な手法による昆虫動態の記録が残された地域です。同一手法で現在の記録を収集すれば比較検討が可能となり、全県下で起きている大量絶滅危機の証拠を示すことができます。

今回の展示では、この比較についてわかりやすく展示、解説します。

(4) 美術

ガラス工芸作家の小林貢氏は、日本陶器株式会社（現在のノリタケ株式会社）においてガラス製品の制作を担当する傍ら、日本現代工芸美術展にて東京都知事賞を受賞する等の輝かしい受賞歴をお持ちです。小林氏の作品は、青色に特徴があり、小林ブルーとも呼ばれています。退職後も荻野地区にアトリエを構え精力的に作品を制作され、それらの作品は国内外を問わず高く評価されています。また、多くの展示会での審査員を務めるほか、神奈川県文化賞未来賞記念品の制作を担当されています。

(5) 民俗

荻野地区からの寄贈資料の中から「紡毛機」「実業学校教科書」等の民俗資料を通して、先進の農業を志向した面を紹介します。「競進社」で学んだ小林昇の資料からは養蚕でもパイオニア的な面がうかがえます。地域特性は、このような貴重な資料にも現れています。

(6) 荻野地区の遺跡出土資料一式

荻野地区では縄文器時代から近世に至るまで、様々な時代の遺跡が数多く確認されています。それらの遺跡の中から縄文時代（中荻野稻荷木）、古墳時代（下荻野石神遺跡）、奈良平安時代（下荻野中三嶽遺跡）、近世（荻野山中藩陣屋跡）などの出土資料を取り上げ紹介します。先史時代の様相は文献などの記録がないため明らかではありませんが、文字に残されていない時代の荻野地区の歴史について、遺跡から概観します。